

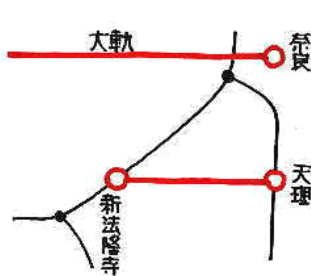
近鉄 その6 天理線

近鉄天理線は、大軌電車時代の早い時期に、天理軽便鉄道を買収してできた路線のようです。

天理軽便鉄道は、大正初期に、当時の国鉄（現JR）関西線を利用して集う天理教の教会員の利便性のために、JR法隆寺駅～平端經由天理駅までの営業を行っていたらしい、地域でもこの開通は歓迎されわずか9.2kmを34分かけてのんびりと走り、軽便鉄道唱歌までできていたらしく、その存在は、JR側から見ると支線の役割を果たす可愛い存在で良い関係にあったようです。

大正末期から昭和にかけての『神道国教化』に目をつけ、橿原線を計画した近鉄は、平端で天理軽便鉄道と交差することになるが、文献によるとお役所の斡旋で当時の大軌が買収することになったらしい。このころから、近鉄の本領発揮で、合併したら早速、平端～天理間だけ軌道を1435mmにし1500V電化を実施し、京都から西大寺經由して天理まで行けるようにし、直通列車を走らせ、天理教祭事には臨時特急電車も運行されるような力のいれようである。

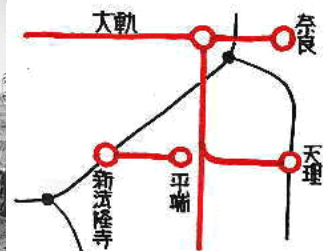
一方、残された法隆寺～平端間は平端で分断され、軽便鉄道のママ、763mmのガソリン動車による運行が続けてきたが、利便性が極端に低下し、利用者も激減したので法隆寺～平端間は昭和27年に廃線となり、JR利用客は完全に近鉄に振り替えられたのである。



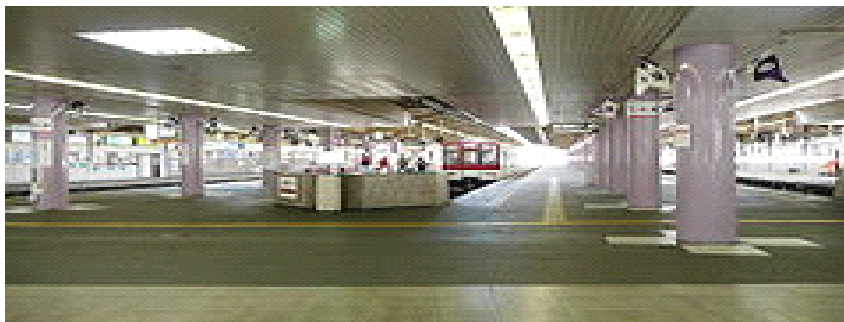
発足当時の路線図



軽便車両（天理線類似）



近鉄橿原線開通当時



現在の近鉄天理駅（本線規模の立派な駅舎）